

コラム 心の形 (1)

文/松原湊



「海」

吉岐新報の読者の皆様、初めまして。私は松原湊(まつばらみなと)、吉岐在住・30代の男性です。

これからこの4面に、「心の形」のタイトルでコラムを書くことになりました。

その中で私は、大好きな「海」の話を中心に、様々な出来事や風景、そして心に感じるもの、感じたもの、心象などなど、ここに言葉という形にしていきたいと思います。

「海」の目前に広がる海原を眺め、そして新しい自分を探しに心の旅を続けてきた場所「海」。幼い頃から慣れ親しんだ思い出の場所でもあり、今なお親愛なる思いを寄せている。少し大げさのように聞こえるかもしれないが、私はそこに「人生の答え」というものが必ずあると思っている。

「答え」と言ってしまうのは、何か終着点のように聞こえてしまう。正確には「人生の答えに近づける場所」と言った方がいいかもしれない。いつもそんな気持ちで心の真ん中に置いておくと不思議に夢や自分の向き合うことができるし、自然に前に進むことができる。私にとって「夢」とは、沢山の目標を失敗も含めて経験し、その中から生まれる自分自身の人生の答えの一部だと確信している。私の目の前にはたくさんある。目標がころがっている。



天手長男神社近くで桜の上を泳ぐ鯉のぼり

打ち寄せる強い波、何度くぐっても前に進めない。「諦める事だ」と出てくる。しかし私は波になりたい。その時「苦」は力となり私を動かす。「海は、生活を励ましてくれることもある」ということが、波乗りを通して「海」から学んだ一つである。

《短歌とエッセイ》 市山 節子

生月島 (平戸市)

殉教の島なる奇岩の草はらに牛が数頭たわむれており

ガスパルの心をきざむ十字架が命を断ちし瀬の辻に建つ

濃紺の海につき出た断崖に吠えたるかに寄するしら波

その昔カッパすみつきしとう浜に小さき神社がぼつんと建てり

活気ありし捕鯨の基地の突堤にコバルトブルーの玄海おどる

菜の花の島をまわりて今日ひと日海のオゾンが心を満たす

独特の異国情緒をもつ平戸

平戸は東洋と西洋が出会う町で、何処を訪ねても歴史の匂いがする町です。絵になる風景が沢山あり、ずっと眺めていたい港町でした。

山頭火は平戸を歩き「平戸は日本の公園である」と詠んだ程です。

平戸には日本で初めてポルトガル船が入港し、イギリス、オランダとも貿易が始まりフィランド(平戸)と呼ばれ「西の都」として繁栄したと事。イギリス、オランダ商館が置かれた頃は、外国人が二千人も居留し、貿易の為に沢山の商人が訪れ賑わったそうです。

その商館跡や、オランダ屏や、石造りのアーチ型のおらんだ橋や石垣、石畳の路地等、独特の風情と歴史を偲ぶ史跡が残っています。

平戸の象徴的な景観は、キリスト教を日本に広めたフランシスコ・ザビエルの記念教会の尖った屋根を囲むように、瑞雲寺、正宗寺、光明寺の寺院がある風景で、平戸だけのものです。

四百年前から城下町として栄えた港町を、見下ろすように建っている平戸城の天守閣からの眺めはすばらしく、玄海灘や、懐かしい故郷の吉岐も望む事ができ忘れられない風景でした。



半誠湾奥の畑で満開のチューリップ

◎現代文明がもたらす幼稚化

現代人はこの便利な技術世界のなかにあって、文字どおり子供のように振る舞っている。

押しボタンの押しだけで、かからは居ながらにして世界中をあちこちと覗き込むことができる。ボタンを押すだけで自動販売機から煙草や缶ジュースや週刊誌が飛び出してくるし、切符を買うだけで飛ぶ機械や走る機械が自動的にどこへでもかを連れて行ってくれるのである。

押しボタンの世界の中で生活していくのに、現代人にどれほどの思考力、判断力が必要とされるのだろうか。(中略)

思考力、判断力の衰弱と幼稚化は、情報化の代償、つまりマスコミの発達と教育の普及の代償として生じている。『文芸春秋』3月号

見かけた時は吉岐保健所へ「不正大麻・けし撲滅運動」

厚生労働省主催の平成24年度不正大麻・けし撲滅運動が1日から6月30日まで3か月間、全国一斉に実施される。

不正大麻・けし撲滅運動は、大麻及びけしに係る事犯の発生は、関係機関の努力にもかかわらず依然として後を絶たない現状にあり、これらの事犯の発生を防止するためには、不正事犯の発見に努めるとともに、犯罪予防の観点から、自生する大麻・けしを一本掃除することが重要であり、撲滅を目指し発見と除去を実施し、広く一般に対して大麻・けしに関する知識の普及を図ることを目的に、各県で取り組まれている。

本県では昨年度、4万2770株、吉岐保険所管内では1株の植えてはいけないうけが発見されました。これは自生や鑑賞用として栽培されていたもの。

①「けし」には植えてはいけないものと、植えてはいけないものがあります。なお、植えては言えないものには大麻の成分が含まれているため、法律(あへん法、大麻及び向精神薬取締法)で栽培が禁止されています。②「大麻(アサ)」も昔から繊維を取る目的や宗教上の習慣から栽培されてきましたが、その若い花や葉には幻覚を引き起こす成分が含まれているため、法律(大麻取締法)で栽培が禁止されています。

③これらの「けし」や「大麻」を見かけた時は、吉岐保健所へ連絡してください。また、はっきり見分けがつかない場合も一応連絡してください。

▼吉岐保険所・衛生環境課(電話0920-470260)

《吉岐新報川柳》

三月兼題「花」

吉岐川柳会

篠崎 絹代 選

節供磯 名の花のみち母と娘と
踏まれても希望の彩りたんぽぽよ
庭の花バツと食卓円くして
菜の花の彩を持たせて背中を押す
花時計二人の愛を知り尽す
やわらかい風を待ってる花の種
あじさいの色は問わない花言葉
花乱れ心も騒ぐ島の春
夜桜に巡る杯おぼろ月
津波後に残りし花芽しかと咲く
今が華花の香りや三姉妹
花筏未練が揺れる流れ行く
蓮ひらく佛の色を宿しつ、
菜花摘む祖母の背丸く春浅く
花野逝く亡母は無言で背を向ける
菜の花の黄に触れる弥勤の裳に
最晩年花で溢れる日々であれ
老舗宿花一輪のおもてなし
花の酔いに追う手はならぬ人の影
お茶は二錠花には朝の水

健人 春菜 洋子 星舟 仲幸 扶巳 扶巳 星舟 仙京 篤世 仲幸 連 妙子 久恵 仲吾 ひろこ 篤世 浦鉦

市退職校長会

24年度総会 研修会

講話「教育の現状と課題」より

Iはじめに

予言の書『日本の自殺』(1975年に発表された論文の再掲)から

◎豊かさの代償

豊かさの代償として、われわれは少なくとも次の三つの点を理解しておかねばなるまい。その第一は、すでに知られておるような、資源の枯渇と環境破壊という代償である。

(中略) 豊かさの代償の第一としてわれわれは使い捨てのな、大量生産、大量消費の生活様式が人間精神に与えるマイナスの諸影響に与らねばならぬ。

豊かさの代償の第三として、われわれは便利さの代償にも触れておく必要がある。便利さの代償は、意味で、豊かさの代償の一部とみなしてもよいからで

確かに、20世紀文明は社会生活の全領域における便利さを求めつつ、前進に次ぐ前進を続けてきた。だがまさにこの便利さの代償として、日本の青少年の体力や知力の低下が進行している。交通機関の発達、エレベーター、エスカレーター、の発達によって子供たちは重いものを歯を食いしはって運ぶ機会を失い、エア・コンディショニングの発達によって、子供たちは夏は涼しく、冬は暖かい温室状態のなかで育てられて、季節感やきびしい自然によって鍛えられる機会を失い、いわば生気の無い「プロイラー人間」と化していきつつあった。生活環境が温室化するほど、教育は人為的にでもきびしい挑戦の場を子供たちに提供すべきなのに、教育は過保護と甘えの中に低迷していた。こうして、自制心、克己心、忍耐力、持続力のない青少年が大量生産され、さらに年が大量生産され、さらには、強靱な意志、論理的思考能力、創造性、豊かな感受性、責任感などを欠いた過保護に甘えた欠陥少年が大量に発生することになった。

押しボタンの世界の中で生活していくのに、現代人にどれほどの思考力、判断力が必要とされるのだろうか。(中略)

思考力、判断力の衰弱と幼稚化は、情報化の代償、つまりマスコミの発達と教育の普及の代償として生じている。『文芸春秋』3月号

II流動性と結晶性知能

【歌の題名、歌手の名前などの固有めいし】が思い出せないのは年相応の物忘れで、完全に記憶から消えたわけではなく何かの拍子にフツと思ひ出す。こういう単なる物忘れを健忘(別の



「大麻」



植えてはいけない「けし」